

【資料1】

令和6年度 幼児教育事業の実施状況について

名称	月日	参加者・対象	内容
幼児教育審議会	第1回 10月21日(月) 第2回 2月10日(月)	幼児教育に関する知識経験者、保幼認小代表、保護者	令和6年度の幼児教育事業計画の報告を行った。 今後の幼児教育振興プログラムに基づく幼児教育事業の取り組みで、課題や気になる点について協議・検討を行った。
幼児教育研究協議会	第1回 9月29日(月)	保幼認小代表	保幼認小義の接続について、課題について協議・検討を行った。
	第2回 12月18日(木)	保幼認小代表	保幼小連携・接続の推進に向けてのアンケート調査を行い、現状を把握し、「保育の日」と「接続カリキュラム」について協議・検討を行った。また、令和6年度の「保育の日」の案の協議を行った。
保育所・幼稚園・認定こども園園長会	第1回 5月10日(金)	保幼認の園長	幼児教育事業報告及び幼児教育事業計画について説明を行った。 昨年度の本審議会での人権に関するご意見をもとに、人権対策課の人権啓発指導員より、「自分が自分であること」～自分らしく生きられる？子どもたちの未来～のテーマで研修を実施した。
	第2回 11月8日(金)	保幼認の園長	幼児教育事業の進捗について報告を行った。 子ども家庭センターのヤングケアラーコーディネーターより、「ヤングケアラーについて」のテーマで研修を実施した。ヤングケアラーの実態、支援や関わり方のポイントについて、理解を深めた。
保育所・幼稚園・認定こども園 小学校・義務教育学校連絡会	6月14日(金)	保育士・幼稚園教諭・保育教諭・小学校教諭(49名参加)	学校と保育園、幼稚園、認定こども園が入学後の子どもの様子を情報共有する場として設定した。 参加者の先生からは、「就学後の様子をこまかく聞くことができて、とても良かった」「連絡先を交換できる名刺を準備してください、とても助かる」という感想があった。 情報交換を通して、幼児教育と小学校教育との連携・接続の強化を図ることができた。 また今年度は、保育協会から差し入れをいただきカフェコーナーを設け、リラックスした雰囲気で情報交換を行うことができた。
幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する研修会	第1回 6月26日(水)	保育士・幼稚園教諭・保育教諭・小学校教諭(32名参加)	福岡教育大学附属幼稚園で、保育参観とグループ協議の研修会を実施した。 参加者の先生からは、「何より先生方の声かけが、幼児の主体性を引き出すもので大変素晴らしいと感じた」「先生方が穏やかで、落ち着いた雰囲気の中、保育されているのが印象的だった」などの感想があった。 「幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿」を視点に置きながら参観し、意見交換することで、気づきの多い充実した研修会となった。
	第2回 9月20日(金)	保幼認の主任と小学校の主幹教諭(37名参加)	福岡教育大学の石上氏を講師に迎え、「子どもの文化と環境を視点とした連携・接続」というテーマの講義とグループ協議を実施した。 参加者の先生からは、「教えの過剰は学びの過小など、とても考えられる内容だった」「大人の当たり前は子どもの大発見という視点で、子どもたちの「なぜ？」を引き出すような言葉かけをしたい」という感想があった。 意見交換の時間が多く、事例をもとに様々な視点で、じっくり交流することができた。 保幼認小の相互理解を推進し、幼児教育及び学校教育の充実を図ることができた。
	第3回 11月12日(火)	保育士・幼稚園教諭・保育教諭・小学校教諭(27名参加)	玄海ゆりの樹幼稚園で、保育参観とグループ協議を実施した。 参観の前に、玄海東小学校教諭大塚先生に、3つの視点、①話す②聞く③文字や数字に興味をもつについて説明していただいた。 参加者の先生からは、「保育園・幼稚園・小学校と3つの視点で話を聞くことができてよかったです」「先生が子どもの発言を肯定し、受け止めることで、子どもたちが安心して発言できていた」などの感想があった。 主に3つの視点で参観いただいたことで、意見交換の時間が大変意義ある時間となり、園と小学校の相互理解を図ることができた。
幼児教育研修会	第1回 7月19日(金)	加配職員・保育士・幼稚園教諭・保育教諭(20名参加)	療育サポートセンターKOTOIRO宗像 益田美咲氏を講師に迎え、「困り感を探ろう！」というテーマの講義とグループ協議を実施した。 グループ協議では、様々なケースについて意見を出し合い、最後に益田氏より講評をいただき、支援方法について理解を深めることができた。 参加者からは、「困っている姿を具体的に特性として捉えることで、支援の仕方も具体的に知ることができた」「色々なケースの子の様子をグループで討議して、自分にはない考え方や気づきがあつてもよかったです」といった感想があり、保育者の資質及び専門性の向上を図ることができた。
	第2回 8月20日(火)	保育士・幼稚園教諭・保育教諭(19名参加)	北九州市立大学文学部人間関係学科 山下智也氏を講師に迎え、「子ども主体の遊びを支える環境づくりと保育者の関わり」というテーマの講義とグループ協議を実施した。 参加者からは、「させられ体験ではなく、『遊び』を日々楽しめる工夫をしていきたい」「遊びの型にこだわらず、子どもの発見した遊びを大切にしたい」という感想があった。 「子ども主体の遊び」について様々な視点から学びを深め、保育者の資質及び専門性の向上を図ることができた。
発達支援コーディネーター研修会	第1回 4月22日(金)	園長・発達支援コーディネーター(37名参加)	発達支援係から市の取り組みと就学に向けた支援について、事例を交えながら具体的な対応について講義した。市と園の連携体制構築を図ることができた。
	第2回 1月27日(月)	発達支援コーディネーター(23名参加)	発達支援コーディネーターが、保育の現場で活かせる知識の習得のために、のぞみ園言語聴覚士松延秀代先生の講義とのぞみ園療育スタッフを交えてグループワークを行った。参加の先生からは、「具体的な内容でわかりやすかった。現場で活かしたい」「園の先生方に学びを共有したい」などの感想があった。発達支援コーディネーターとして、園内で情報共有や検討を行うために必要な知識を得られる有意義な研修ができた。
子どもの安全に関する研修会	第1回 5月31日(金)	市内小中学校・幼保園・障害児福祉サービス事業所・宗像児童相談所等関係職員・市職員等(49名参加)	第1回 福岡県立大学准教授奥村氏を講師に迎え、ネグレクトの理解と家族支援をテーマに、課題を抱える課々九への支援について理解を深めた。
	第2回 3月 6日(木)	市内小中学校・幼保園・障害児福祉サービス事業所・宗像児童相談所等関係職員・市職員等(36名参加)	第2回 福岡地方検察庁検事佐田氏を講師に迎え、子どもから被害を打ち明けられた時の支援者の対応についての講義を実施することができた。
家庭教育学級支援事業	第1回 9月27日(金)	市内保育所・幼稚園・認定こども園、市立学校PTAコミュニティ運営協議会、市内子育て支援関係団体 第1回(103名参加) 内録画視聴43名	第1回講座は、講師に福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科准教授の奥村健一氏を迎えて「より良い親子関係のつくり方」というテーマで、「ベスト(最も良い)」ではなく、「ペタ(より良い)」な親子関係について学んだ。子ども支援課、図書課と連携し、より幅広い受講者を獲得し、多くの市民に周知啓発することができた。また、受講者から「帰宅後すぐに実践したい。」や「大人も学ぶ機会が必要と改めて感じた。」と満足度の高いアンケート結果となった。
	第2回 2月 1日(土)	市内保育所・幼稚園・認定こども園、市立学校PTAコミュニティ運営協議会、市内子育て支援関係団体 第2回(31名参加) 会場開催のみ	第2回講座は、講師にAitcom株式会社代表取締役の柴田真理子氏を迎えて「ネットやゲームとのいいつきあい方」というテーマで、ネットやゲームにのめり込む子どもを制限するのではなく、寄り添うためにはどうしたらいいのかを学んだ。講師の実体験(息子が不登校・ゲーム依存、家庭内暴力を起こした過去)に基づく話は受講者から「痛感できた。」、「子どもとの関わり方に実践したい。」とこれまでの家庭教育を親が省みるきっかけになった講座となつた。
連携事業			
保育の日	4、7、8月	保育士・幼稚園教諭・保育教諭・小学校教諭	「保育の日」の実施園は20園で、訪問人数の合計は55名。 令和6年度は、1年生の担任の先生が入学式の前に園の様子を見られるよう、初めて4月に実施した。小学校の先生の訪問人数は15人。参加された先生からは、園で過ごしている子どもたちの姿や保育者の関わり方を見ることができてよかったです」という声があった。
保育所・幼稚園・認定こども園による小学校見学支援事業	主に学校の日	市内保育所・幼稚園・認定こども園	7月、11月、1月、2月に1園ずつの計4園が利用。 1年生の教室で授業を見たり、学校の中を探検することで、子どもたちは1年生になることの期待が膨らんでいた。利用園からは、「友達や先生と一緒に見学することで、不安も軽減された」という声があった。